

COMMUNICATION BREAKDOWN

コミュニケーション・ブレイクダウン

by Jimmy Page/John Paul Jones/John Bor © 1969 SUPERHYPE PUBLISHING INC. Assigned for Japan to TAIYO MUSIC, INC. Authorized for sale only in Japan.

■この曲のポイント

GUITAR

ノリのよい日ビートのナンバーだ。ワイルドなコード・バッキングと奔放なギター・ソロといったプレイが中心になっている。ジミー・ペイジはテレキャスターを使用しているが、ハムバッキングでもハイを持ち上げるセッティングにすれば充分に雰囲気が出るだろう。スピード感のある曲なので、一気に弾き切ってしまおう。

BASS

ギターのプレイをガッチリ支えているのがベースだ。サビまでギターとのユニゾン・プレイだが、サビに入っての躍動感のあるライン

が勝負だ。ひとつひとつの音を大切にプレイし、全体的なスピード 感を失わないような、完璧なリズム・キーブを行おう。また、ブレ イク部分のグリスなども軽視できないポイントだ。

DRUMS

スピーディな曲なので、バスドラ部分のスタミナが要求されてくる。 サビ部分のシンバルは、非常にワイルドに叩かれているので、スティックの腹部分で全体を鳴らすようにすること。アクセント部分で のフラム打ちも多用されているので、タイミングを外さないように したい。ひたすらパワフルに叩くことを心がけよう。



●(Gt.):この曲のメインとなるバッキング・パターンだ。ピックは、弦に対してやや立てぎみにしてプレイすることが、ワイルドな演奏を生むポイントだ。

❷(Ba.):このフレーズをしっかりと弾くことがポイントになるので、正確なリズム・ワークを心がけよう。



❸(Gt.):リピート時のプレイは、メイン・バッキングを消してしまわないように、控目にプレイされている。

④(Dr.):バスドラでノリを引き出しながら、力強く プレイすること。スネアでフラムを行った後のシン バルが遅れないようにすることも大切。





⑤(Gt.): 非常にノリのあるロックン・ロールのパターンだ。ここでは、シンコペーションのタイミングと左手の小指の使い方がポイントだ。

⑤(Ba.):8分のシンコペーションに注意しながら、 流れるようにプレイすること。

②(Dr.):リピート時のライド・シンバルは、カ*−*杯 叩くこと。





❻(Gt.):低音域をカットしたセッティングにして、 荒っぽいチョーキングをすると雰囲気が出るだろう。



●(Gt.):ボーカルに絡みながら半音ずつ上昇していくパターンだ。かなりテンションが上がる部分なので、若干ラフにプレイしてもよいだろう。





